

◆ めざそう世界遺産 武家の古都・鎌倉 ◆

フランス語スピーチコンテスト 開催

平成24年10月28日(日)、鎌倉女学院陸奥ホールで、鎌倉世界遺産登録推進協議会主催、鎌倉市共催によるフランス語スピーチコンテストが催されました。ユネスコ本部がパリに在ることもあって、鎌倉の魅力をフランス語圏の人々に発信しようという趣旨で行われたコンテストです。後援に在日フランス大使館、(公財)日仏会館等が名を連ね、国際色豊かな催しになりました。応募者22名から選考された、21歳以上のA区分、20歳以下のB区分それぞれ5名の計10名によって競われました。1人当たり7分程度のスピーチでしたが、いずれも鎌倉の魅力が豊かに盛り込まれていました。会場には若い女性の姿も多く、坂麗水さんによる薩摩琵琶、『遠干潟』(新田義貞の干潟渡り)の演奏もあって華やいだ雰囲気の催しとなりました。

審査員

フランシス・メジェールさん
(在日フランス大使館文化部次席参事官)
リシャール・コラスさん
(鎌倉国際観光親善大使・シャネル日本法人社長)
池村俊郎さん
(元読売新聞パリ支局長・日仏会館文化事業委員)

●発表者の発言から

A区分・最優秀賞の神田栄子さんは、ディジョン大学に2年間に在学した経験があり、現在外国人向けのボランティアガイドで活躍している。

ガイドの眼を通して捉えられた多彩な鎌倉の社寺などの文化や歴史と自然の魅力を上げ、6月から始めたフリーガイドサービスという活動を紹介した。毎週金曜、仲間のボランティアが鎌倉駅前で、プラカードを持って外国人観光客を迎える活動とのこと。

B区分・最優秀賞の保科早紀さんは大学1年生で、4月に名古屋から越してきたが、フランス語で古都鎌倉の価値ある文化を紹介したい意思を持つ。日仏学生フォーラムのメンバーとして、この8月に招待されたフランスの学生を案内して鎌倉をめぐる体験を語った。フランスの学生が社寺や花火・畳・大風呂など鎌倉の様々な文化に接したときの新鮮な驚きを通して鎌倉の魅力をユーモアを交えながら生き生きと表現した。

以下、会場の共感と呼んだその他のいくつかのスピーチを取りあげる。梅澤寿美代さんは、鎌倉の良

さを、寺社を中心にした古都鎌倉と海と太陽が自由な気持ちにしてくれる明るい街という2つの顔があることから説明、2年前に鎌倉に越してきた坂本詩穂子さんは、鎌倉の市民が閉鎖的ではなく、新しい住民を快く受け入れてくれる理由を、ともに鎌倉の伝統を守ろうという意識の共通性に求める。そして、人も自然も歴史もすべてつながり、自然に存在し、互いに影響し合っていると述べた中学3年の山下真理子さん、3ヵ月ほど過ごしたベルギーの学校でフランス語に出会った経験を語り、友達に鎌倉を紹介したいと元気よく主張して、この日にわかに設けられた審査員特別賞となった9歳の本戸裕実さん、さらに、武家らしい力強い鎌倉の仏教彫刻の流れが今日の鎌倉彫刻に流れていることに言及する大学2年の菊池瞳子さんなどのスピーチが印象的だった。

●審査員の講評から

AB区分別に最優秀賞・優秀賞・第三位賞および奨励賞など発表者全員に賞が授与された。

審査員のメジェールさんが、開口一番、素晴らしい午後であった、選ぶのが大変であったと言ったのは、レベルの高さの指摘である。コラスさんは、正しいフランス語であるか、発音が正しく、聞き取れるか、新しい表現が取り入れられているか、ポーズや微笑みなど聴衆に訴えかけるものなどを選考基準においたが、全員魅力的で、愛情をこめてほとんど原稿を読まないでスピーチしていたと評する。

池村さんは、賞とは関係なく発表者を名指しで取り上げ、魅力的な話し方、笑顔の素晴らしさ、初々しさを挙げて評価した。

また、フランス語圏は広く、フランス語で話すと世界が広がる、フランスの一番の財産はフランス語の中にあるという、講評に付随した発言は、この日のコンテストの意義を深めるのものとして注目された。



B区分・最優秀賞の保科早紀さん